

おはようございます。昨年 4 月より渋谷前会長の後を受け、日本英語英文学会第 4 代会長に就任しました野村忠央でございます。第 32 回年次大会開催に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、先生方には快晴の天気の中、Zoom 画面の前にご参集頂き、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの感染防止を考え、本年度も Zoom 開催を決定した次第です。本日は英米文学の特別講演 1 件、研究発表が 2 室に分かれ、英語学が 6 件、英語教育学が 1 件の計 8 件の発表が予定されております。大会当日に至るまで大会準備にご尽力下さった大会運営委員会の加賀岳彦委員長、川崎修一副委員長、大会運営委員の先生方、HP の大会情報掲載にご尽力頂いた広報委員の佐藤亮輔先生、齋藤章吾先生に記して感謝申し上げます。本日は事前申し込みで当日会員を含め、89 名もの参加者が予定されております。司会、発表者、会員の先生方にはどうぞよろしくお願い致します。

さて、本会の朗報として、会員数も当初の目標を遥かに超えて 123 名に達し、本年 2023 年 1 月 5 日付で、日本学術会議事務局の協力学術研究団体担当から連絡があり、本会が日本学術会議協力学術研究団体に指定されたとの通知がございました。私は元来、この JAELL のアットホームさや学会誌に自由にのびのびと書ける雰囲気を楽しみたいと考えて参った人間ですが、若い会員の方々の未来を考えるに、学術団体を目指すことは重要なことだという役員会の結論を尊重すべきと考え直した次第です。理系の大学を含め、昨今は博士号や学術団体の論文を有していることが採用や昇任の条件となっていることも少なくない状況となって参りました。

それを考えますと、今回の指定を受け、長い期間に互る努力が実ったことを会員のみならず、共に喜び合いたいと存じます。会員、役員の方のこれまでのご尽力に感謝申し上げます。また、申請当時、渋谷和郎第 3 代会長及び、申請書類等、煩雑な申請事務作業を全てこなして頂いた土居峻事務局長のご尽力がなければ今回の申請はとて叶いませんでした。そして、ここに至るまでの、設立発起人で顧問でいらっしゃる初代会長の鈴木繁幸先生、初代編集委員長・初代大会運営委員長の永谷万里雄先生、本会の前身八王子英文学研究会初代代表の松倉信幸先生及び、藤田崇夫第 2 代会長をはじめとした歴代の役員の方々の三十有余年のご尽力に—ここにはその全てのお名前を挙げる事が叶いませんが—記して感謝申し上げます。名誉顧問の鈴木雅光先生が懇親会の開会のご挨拶で学術団体の指定のことに言及されてから十年は経ったでしょうか。

18 歳人口の減少によって大学自体が厳しいのみならず、英文科、人文科学系には冬の時代が続きますが、どうぞ会員、役員のみならずには、これまで以上に学会発表や学会誌投稿で本会を盛り上げて頂き、また本会を活用して頂ければ幸いです。以上を以て、大会のご挨拶に代えさせていただきます。本日は最後までどうぞよろしくお願い致します。